

■ 日常的な取組

■ 授業で、家庭で、大切にしたいこと

読書活動を推進し、未知の世界や新しい言葉と出会う楽しさを味わわせましょう。

- ・読み聞かせをする。
- ・本を読ませる。
- ・新聞を読ませる。



教科書を声に出して読むことで、言葉や文の意味を正確に理解する力を育てましょう。



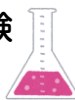
正しい筆記用具の持ち方で丁寧に書かせ、学習に向かう基本的な姿勢を育てましょう。

- ・視写
- ・聴写



集中力をコントロールし、正しい手順で正確に処理できるよう、自己調整力や粘り強さを育てましょう。

- ・筆算
- ・観察、実験
- ・調理



■ 授業の前に、授業中に、教師が大切にしたいこと

授業の前に、教科書の中の、児童生徒が理解できないと考えられる語や表現を確認しておく。



教科書の図や表、グラフなどについては、文章のどの部分と結び付いているのかを確認しておく。

「きちんと」、「しっかりと」など、あいまいな表現は避け、教師の意図が明確に伝わる表現を心がける。

児童生徒の話を遮ったり簡単に引き取ったりせず、聞き手に伝わるように最後まで話をさせる。



■ 指導のポイント

RSの視点

- ①主語と述語を明確にして説明させる。
- ②主語と述語、修飾語と被修飾語等の関係を確認しながら読ませる。
- ③「それ」「このような」等の指示語や代名詞が指す言葉や内容を確認しながら読ませる。
- ④省略された主語や目的語を補いながら読ませる。
- ⑤見たことや聞いたこと、考えたことを省略せずに丁寧に説明させる。
- ⑥身近な自然に接する時間をとり、対象をじっくり観察させる。
- ⑦見たことを正確に文章にしたり、絵に描いたりする活動をさせる。
- ⑧言葉や文と、絵や図とを対応させて考えられるようにする。
- ⑨図や表、グラフを活用して文章等にまとめさせる。
- ⑩記述式の解答が正答例と同義であるか判断させ、同義になるように修正させる。また、なぜこれでは同義ではないかを説明させる。
- ⑪「～を…という」というような定義文を全員で確認するようにし、用語の定義を「とは」を使って説明させる。
- ⑫具体例を挙げて説明させたり、理由を口頭で説明させたりして、知識を習得できているか確認する。
- ⑬「～がおもしろかった」「～がよかった」「とても～」「すごく～」などの表現で満足せず、思いや考えを的確かつ豊かに表現させる。
- ⑭複数の段落で構成された文章を200字程度でまとめさせる。
- ⑮「～だから、～と考えられる。」と原因や根拠をもとに思考させる場面をつくる。
- ⑯既存の知識と習得した知識を効果的に活用して論理的に説明させる。
- ⑰仮説を立てて検証するような場面をつくる。

係り受け解析

照応解決

イメージ同定

同義文判定

具体例同定

推論

教科書を正しく読み、自ら学び続ける力と意欲をもつ児童生徒の育成のために



RSの視点を取り入れた授業改善

教科の目標の達成に向かう中で、指導のポイントの一つ程度にしぼって取り入れてみましょう。



たとえば

【教師】教師の意図が正確に伝わるように発問する。

【児童生徒】読むスキルを身に付け、文章を正しく読むことができる。



単元・本時における目標の達成

「汎用的基礎読解力」の向上

たとえば

【教師】子どもたちのつまずきを想定した声かけをする。

【児童生徒】自学自習し、新しい知識を獲得することができる。

リーディングスキル(RS)の視点



DEP

Dependency Analysis

係り受け解析

文の基本構造を把握する力

ANA

Anaphora resolution

照応解決

代名詞等が指す内容を認識したり、省略された言葉を補ったりしながら読む力

REP

Representation

イメージ同定

文と非言語情報(図表等)を正しく対応させる力

PARA

Paraphrasing

同義文判定

二つの文の意味が同一かを判定する力

INST

Instantiation

具体例同定

定義を読んで、それと合致する具体例を認識し、言葉を的確に使いこなす力

INF

Logical Inference

推論

基本的な知識と常識から論理的に判断する力